

# 中学・高等学校現場にはどのような英語資格試験が 効果的か その2

— 実用英語技能検定試験と TOEIC、その他資格試験との比較、  
今後における課題 —

山西 敏博\*<sup>1</sup>

Research on Effective English Examinations for Junior and Senior High School  
Students

YAMANISHI Toshihiro

This study researches what kind of English examinations are suitable for junior and senior high school students. The STEP Tests have been said to be essential for them, whereas TOEIC, TOEIC Bridge and other tests have been popular generally. This research shows how effective these tests are for English learners at schools.

KEYWORDS : English examination, STEP Test, TOEIC

## 1. 研究の目的

実用英語技能検定試験（英検）はその設立以来 40 数年に渡り学校現場に定着し、数々の級を設立して、中高校生は言うに及ばず、小学生や大学生、一般社会人にも英語学力の伸長度を測る指針として、これまでに数多くの受験生を抱えてきた我が国では最大級の英語検定試験である。一方、それに対して、近年企業からの要請として「使える英語」、すなわちコミュニケーション能力を重視した新たな英語検定試験の柱として TOEIC (Test Of English for International Communication) および TOEIC Bridge が脚光を浴び、その受験熱は高まりを見せる傾向にある。

そのような中で、本論では以下の 2 点に対して

分析を行い、提言をしていくことを目的とする。

1. 英検の優位性：英検とセンター試験との関連性、TOEIC との比較
2. 英検の TOEIC Bridge 他各種英語試験と比較しての課題

これらに関して、外部試験として定評のある 2 つの英語試験である、「英検」と「TOEIC (Bridge)」を中心として、大学入試センター試験英語科目との獲得得点などの相関性と比較検討しながら、今後の指標としていきたい。

---

\*1 一般科(Dept. of General Education), E-mail: yama0225@oyama-ct.ac.jp

## 2. 英検の優位性：英検とセンター試験

### との関連性、TOEIC との比較

外国語学習における4技能、すなわち、Speaking, Listening, Reading, Writing に関して、英検はこれらの能力を測る上で大変有用な試験であると考えられる。「審査基準」では、まず測定領域として「Reading, Listening」が全ての級で最初の項目に位置付けられ、3級以上には「特に口頭で表現できる」という条文から、2次試験の面接において、実用面における Speaking を中心とした英語によるコミュニケーション能力の審査に重点が置かれている（日本英語検定協会, 2003）<sup>1)</sup>。従って、Speaking については2次の面接試験で最大10分程度、Listening は1次の試験で30問、Reading についてはこれも1次の文法・語法、及び読解試験で測る事ができる。それらがコンピュータによって数値としてはじき出され、受験者は自分がどの分野が強かったか、または弱かったなどが判定できて大変有用であると思われる。ただ、Writing の測定に関しては、TOEFL に付随する「TWE (Test of Written English)」や「G-TEC テスト (Benesse)」が行っている Writing Test の方が真の Writing 能力を測っているかと思われる（これも後述の 4. に関連する）。

従来は Writing を測る出題方式といえば、「文整序」(表1)や「語群空所補充」(表2)、更には「和文英訳」(表3)などが主流であった。

#### 表1：「文整序」例題

次の問い(問1・2)において、文章の[28]・[29]に入れる3つの文が順不同で下のA~Cに示されている。論理的な文章にするのに最も適当な配列のものを、下の①~⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

問1 According to current statistics, between 80 and 90 percent of Americans will require a blood donation during their lifetime. [28] As a matter of fact, all blood types are needed all the time in most areas.

- A. Blood is available in the event of an emergency when healthy people are willing to donate it.  
 B. Because whole blood lasts only 35 days and some blood components last only 72 hours, a continuous supply is needed.  
 C. Often, the situation is an emergency.

- ① A-B-C    ② C-A-B    ③ B-C-A  
 ④ C-B-A    ⑤ A-C-B    ⑥ B-A-C

[2]

#### 表2：「語群空所補充」例題

問1~3において、それぞれ①~⑤の語句を並べ替えて空所を補い、文を完成させよ。ただし、解答は⑳~㉔に入れるもの番号のみを答えよ。

問1 Our Technical college is located \_\_\_\_\_ [20] [21].

- ① a few    ② kilometers    ③ of  
 ④ the hotel    ⑤ within    [1-4]

#### 表3：「和文英訳」例題

問1 次の日本語を英文にせよ。  
 今年の北海道の夏はとて涼しい。最高気温が28度までしか上がっていない。

解答例：We(They) have very cool summer in Hokkaido. The highest temperature there is no more than 28 degrees (Celsius).

しかしながら、英検では筆記試験を行っていない(マーク式回答方式のみ)ことから「和文英訳」以外の2方式のみが採用されている。一方、上記の2テストは実際にテーマに即して論旨展開を含めた英文による記述(小論文方式)を導入し、それを Native が直接添削をして採点をする(表4-1, 2)、加えて G-TEC においては、その解答用紙を赤字で添削して受験者に返却するといった方法を採用している(表5-1, 2)。

表4-1: 「小論文方式」 Writing 試験 例題

We have to decide whether even under 14 year-old-boys and girls who committed murder should be put into prison since we have a lot of juvenile crimes in Japan nowadays. Write down your opinion about this issue within 100 English words.

表4-2: 「TWE 試験」 例題

Do you agree or disagree with the following statement?

Parents are the best teachers. Use specific reasons and examples to support your answer.

(TOEFL TWE Test サンプル問題) 2)

表5: 「G-TEC テスト Writing Test」 論題編 例題

日本の学校では生徒一人一人に1台のコンピュータを用意すべきだ、という意見があります。この意見に賛成か反対かあなたの立場を明らかにし、あなたの経験や知識を元に、その理由をできるだけたくさん英語で述べなさい。

(Some people think that schools in Japan should provide all students with their own personal computers to use in the classroom. Agree or disagree with this idea and give as many reasons as you can for your opinion.)

(G-TEC テスト Writing Test Basic ,2002) 3)

次のグラフを見て、果物輸入消費量の推移について特徴的なことを英語 100 語前後で記しなさい。なお、(X) は Orange、(Y) は Cherry、(Δ) は Watermelon、(Z) は Grape を示している。

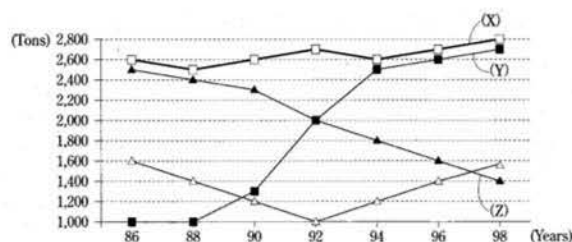


図1: 「G-TEC テスト Writing Test」 2003 図表読解編 例題

TWE や G-TEC の両試験と英検の受験者の絶対数が大きく異なるために、英検ではこのような出題、採点方式の導入は極めて困難かと思われるが、現実的にこのような方法で Writing 能力が測定されていることは事実として提示する。

コミュニケーション能力を測る上で1次試験の筆記(マークシート方式)では測る事のできない2次の面接試験を実施しているといった点も英検の強みであろうと思われる。英語を初めとする言語はコミュニケーションの道具である観点からも、面接試験の導入は大変意義があると考えられる。

一方、英検の出題形式は中等教育の学校現場においては大変有意義な形となっている。これまでに英検とセンター試験の出題形式の類似性について現場で指導を行ってきている高等学校教諭から記された論文がある(藤原,1997、山西, 2000) 4) 5)。それによると、藤原は問題構成や出題傾向から見た共通点と相違点における研究で、リスニング能力の測定がセンター試験には導入されていない点(2002年当時)や設問数と出題比率がそれぞれの試験において多少異なる以外においては、双方の試験における類似性はきわめて高いことが実証されている。

表6: 「英検2級」と「センター試験(2002年度)」との出題形式の比較(第1問以下横並び)

| 英検2級             | 大学入試センター試験      |
|------------------|-----------------|
| 第1問: 文法・語法       | 発音・アクセント        |
| 第2問: 語群整序        | 文法・語法、会話表現、語群整序 |
| 第3問: 長文中語補充(論説)  | 長文中語補充、文整序      |
| 第4問: 長文読解(論説・評論) | 図表等ビジュアル読解(論説)  |
| 第5問: ——          | ビジュアル会話読解       |
| 第6問: ——          | 長文読解(小説)        |

|                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| Listening : あり<br>(30点/75点) | Listening : なし<br>(0点/200点) |
| 全問題中の Listening の比率         |                             |
| 40%                         | 0%                          |

すなわち、英検 2 級の第 1・2 問は 2002 年当時の大学入試センター試験の第 2 問に相当し、英検 2 級の第 3 問はセンター試験の第 3 問に、英検 2 級の第 4 問もセンター試験の第 4 問に相当すると考えられる。

また、近年のセンター試験においても、同様の傾向が見られる。

表 7: 「英検 2 級」と「センター試験 (2010 年度)との出題形式の比較 (第 1 問以下横並び)

| 英検 2 級                      | 大学入試センター試験                   |
|-----------------------------|------------------------------|
| 第 1 問: 文法・語法                | 発音・アクセント                     |
| 第 2 問: 語群整序                 | 文法・語法、会話表現、語群整序              |
| 第 3 問: 長文中語補充 (論説)          | 未知語・表現推測、討論要約<br>長文中語補充      |
| 第 4 問: 長文読解 (論説・評論)         | 図表等ビジュアル読解 (論説・<br>図表)       |
| 第 5 問: ——                   | ビジュアル会話・論説読解                 |
| 第 6 問: ——                   | 長文読解 (評論・論説)                 |
| Listening : あり<br>(30点/75点) | Listening : あり<br>(50点/250点) |
| 全問題中の Listening の比率         |                              |
| 40%                         | 20%                          |

すなわち、表 7 のように、英検 2 級の第 1・2 問は 2010 年度の大学入試センター試験の第 2 問に相当し、英検 2 級の第 3 問はセンター試験の第 3・5 問に、英検 2 級の第 4 問もセンター試験の第 6 問に相当すると考えられる。その結果藤原 (1997) は「英検はセンター試験の受験対策として非常に有効である」と説いている。その結果を参考にしながら山西 (2000) 5) は「第 12 回英検助成・研究部門」を受賞した「英検取得級と大学入試センター試験英語科目との相関関係に関する研究 (日本英語検定協会)」の中で、「ある一定の英検級 (準 2 級・2 級) を取得した生徒は、同様にセンター試験英語科目でも高得点を取ることができる」という仮説を立て、それを実証した。その結果、英検取得級とセンター試験における英語科目との間には相関関係は見られ、準 2 級取得者

は、データから読み取ることのできるセンター試験英語科目平均点は 2 年間平均およそ 140 点、2 級取得者のセンター試験英語科目平均点はおよそ 160 点という結果が出た。このことから、とりわけ 2 級や準 1 級を取得していた生徒は、センター試験においても高得点を取ることができたということが立証された。

更に早い学年に英検級が取得できた者 (中学 2 年次に英検準 2 級、中学 3 年次に英検 2 級を取得) はセンター試験でもかなりの高得点を挙げる事ができるという分析結果もなされた。これは早期に英語を習得する事が、将来的には自分の可能性を大いに広げる道標ともなることが実証されたことになった。

更にそれらに相まって、藤井 (1997) 6) は勤務校の生徒に「卒業条件」のひとつとして、全員に「英検 2 級」の取得を義務づけているという報告をしている。その結果、英検 2 級取得者の難関大学合格率との相関関係は高くなったということが立証されている。

他方、TOEIC においては、4 技能の測定についてはどうであろうか。前述の出題形式から、現在 Speaking や Writing に関しては、「Speaking and Writing Tests (略称 SW テスト)」と称して「話す・書く」の技術を測定している (国際ビジネスコミュニケーション協会, 2012) 7)。また、Writing については、以前は英検と同様に「語群整序」の形式が出題されていたが、2006 年以降の改訂でその形式がなくなってしまった。代わりとして、「写真描写」や「E メール作成」、そして「意見記述」など、いかにも「書くこと」としての内容は多岐に渡っている。また、Listening, Reading についても従来通りの方法で測定ができています。さらに Bridge においては、Reading セクションには語群整序はなく、Part 4 の文中に適切な一語を入れるという形式にとどまっている。以上の事から総合的に判断して、近年の TOEIC は以前に比べて格段の進歩が出てきていることがわかる。

反面、中等教育現場にあたる中学・高校生が、全ての分野に対して精通して記すことができるかどうかや、語彙力を含めてこれらの課題に対して適切な論旨展開をしながら記述をしていく事が可能かどうかという点には疑問が残る。そして、その検証として、2010 年度現在で受験者総数は 2006 年度より創設されて以来、過去最多の 8,500 人にはなっているものの、そのうち学生の受験

者総数は1,503人(17.7%)、さらにそのうちの中学・高校生の総数は70人(4.7%) (国際ビジネスコミュニケーション協会,2011) 8) という結果が出ており、中等教育現場においてはまだまだ普及しているとまでは言い難い。したがって、この4技能を測る TOEIC 試験が中等教育現場に浸透していくまでは、まだまだ時間がかかるであろうことが推察されることから、現段階においては英検の方がまだ中等教育現場内においては、その存在価値としては優位であろうと思われる。

### 3. 英検の TOEIC Bridge, TOEIC と

#### 比較しての課題

これまでに1.2.の章の中で記したように、英検についても今後改善を要する必要があると思われる点も散見される。それは以下の2点である。

- (1) Skimming, Scanning を用いての情報収集という「現代的な内容読解」に乏しい
- (2) 真の「書く」能力(Writing Competence)の測定に乏しい

(1) については、TOEIC における Part 1 の写真を見てのリスニング問題と、同じく TOEIC Part 7 の表を見ての読み取りである。社会において必要な技能としては、単純に長文を読んでその内容把握についての設問に答えるというよりは、外国に 行って案内板や時刻表等を見ながらそこに記されている注意書きを読むとか、空港などで出発時刻や乗り場が急遽変更になった時などのアナウンスを聞くといった場面が数多く想定される。日常生活においても文献資料を読むよりはパンフレットや広告などの情報をすばやく読み取って、自分の生活に役立てていく事が多いであろう。そのような観点から最近の現状では英検から TOEIC 形式にシフトしていこうという傾向が好まれ始めているのかもしれない。加えてそのような能力に長けた社会人が必要にもなっている事から、企業が TOEIC を積極的に採用する傾向が見受けられる。

表 8 企業が求める英語力

| 企業名   | TOEIC 目標得点                   |
|-------|------------------------------|
| 富士通   | 600 以上 (必須)                  |
|       | 730 以上—海外赴任・国際業務担当           |
|       | 860 以上—MBA 取得資格・技術者留学        |
| 伊藤忠商事 | 662——新入社員平均獲得得点 (2003)       |
|       | 700 未満—通信教育による TOEIC 教材での履修  |
|       | 700 以上—半年間の大学附属 ESL にて全社員が研修 |
|       | 4 年後に取る目標得点                  |

(国際ビジネスコミュニケーション協会,2011) 9)

表 9 Proficiency Scale

—TOEIC スコアとコミュニケーション能力レベルとの相関—

|            |         |
|------------|---------|
| 新入社員       | 455—655 |
| 技術部門       | 515—725 |
| 営業部門       | 525—745 |
| 海外部門 (駐在員) | 655—850 |

(国際ビジネスコミュニケーション協会,2011) 10)

表 10 過去 5 年間の新入社員平均スコア (点)

|      |     |
|------|-----|
| 2006 | 466 |
| 2007 | 460 |
| 2008 | 456 |
| 2009 | 466 |
| 2010 | 485 |

(国際ビジネスコミュニケーション協会,2011) 11)

以上のように企業が「使える英語力」を要求しだすと、将来的に社会に人材を送り出す側としての学校現場もそれに追随すべく、勢い TOEIC かまたはそれに準じる Bridge を採用しようという流れになると思われる。しかしながら、前述したようにあくまでも現段階で学校現場においては「読み・書き」が中心の英語教育となっており、

加えて出題される語彙数の問題から、使用単語に制限を設けてはいない Bridge において、中学校現場での学習語彙数は 2003 年度 4 月からは 900 語程度（うち必須単語は 100 語）（金谷,2002）<sup>12</sup>）踏襲されていることから、おのずと Bridge は中学生にはまだ向かない試験であると思われる。

では、高等学校現場においては Bridge の位置付けはどうか。設問の形式は高校においての一般のテスト出題形式とはやはり一線を画してはいるが、TOEIC を意識する学校では採用を前向きに検討する所もあるかもしれない。むしろ、「TOEIC を採用する学校は、レベルが高い学校」といった風潮もあることは事実であろうと思われる。2002 年度において学校単位で TOEIC を採用した著名な学校は、神奈川県においては聖光学院<sup>13)</sup> <sup>14)</sup>と栄光学園中高等学校<sup>15)</sup>であった。両校の卒業生の学力を測る指針の一つとして、主要大学への合格者数をその目安とする。

表 11 主要大学合格者数 (2003) (名)

| 高等学校名 | 東京 | 一橋 | 東工 | 国立大医 | 早稲田 | 慶應義塾 |
|-------|----|----|----|------|-----|------|
| 栄光学園  | 77 | 11 | 8  | 23   | 92  | 104  |
| 聖光学院  | 37 | 14 | 11 | 7    | 114 | 144  |

両校とも採用の理由としては「国際的なコミュニケーション能力の修得」を挙げている (TOEIC Bridge,2003)<sup>16)</sup>。

東京都・目白学園中高等学校<sup>17)</sup> は 2002 年度の「Super English Language High School (略称 SEL Hi)」に認定された。SEL Hi 事業とは文科省が推進する「英語が使える日本人」の育成のための行動計画」の一環として具体的な行動計画の中で取り上げられた高校レベルにおける取り組みであり、2002 年度にスタートし、英語教育で顕著な活動を行っている高校を 4 年間で 100 校指定し、3 年間の研究プロジェクトを任せる事業となっている。学習指導要領にとらわれない独自のカリキュラムによって、英語読解力を向上させ、受験英語はもとより、より効果的な実践英語の研究を進め、更にインターネットによる豊富な英語情報を他教科に活用する能力をさらに高めたり、海外校や大学との交流などもより一層充実させることができる事業である (福岡女学院,2004)<sup>18)</sup>。当校は「読む・書く」に重点がおかれた言語教育」からの脱皮を図り、「聞く・話す」を中心とした授業

によるコミュニケーション能力を育みながら総合的な英語能力を高める」という趣旨で Bridge を採用している (TOEIC Bridge,2003)<sup>19)</sup>。埼玉県栄東高校は「総合的な英語力育成の指針としての活用」を決め、「テストが 1 時間と授業内での対応に最適」であり、「大学や企業から高い評価を受けている TOEIC につながるテスト」であることが採用の理由であると述べている (TOEIC Bridge,2003)<sup>20)</sup>。1995 年頃には鹿児島ラ・サール高校では同じ英検でも「ケンブリッジ英検」を採用している。すなわち、前述したように「企業が TOEIC を積極的に採用」といった流れや「国際的なコミュニケーション能力の修得」から、学校としてもこれらに見合った生徒の育成を追隨させていると考えられる。ただ、これはやはりあくまでもレベルが高い進学校に限定されているのが実情である。TOEIC Bridge の受験者総数のうち高校生は 22.6%、団体特別受験制度 (IP) による高校生の受験者数は 30.6%を占めているが、この国際ビジネスコミュニケーション協会自体も Bridge の受験資格は「TOEIC450 点」以下の者に薦めているほど、本試験のレベルの高さを示している (国際ビジネスコミュニケーション協会,2003)<sup>21)</sup>。

一方、この「TOEIC450 点」という目安は、国立高等専門学校 (高専) 30 校 (受験者総数 3,756 名)、及び高等学校 (高校生) 49 校 (同 5,569 名) が 2002 年度に受験したデータによると、受験者平均は高専生で 342 点、高校生 368 点 (国際ビジネスコミュニケーション協会,2003)、さらに、国立高等専門学校 (高専) 55 校 (受験者総数 20,643 名)、及び高等学校 (高校生) 138 校 (同 11,765 名) が 2010 年度に受験したデータによると、受験者平均は高専生で 349 点、高校生 410 点 (国際ビジネスコミュニケーション協会,2010)<sup>19)</sup>となっていることから、450 点を目標得点とするには 2002 年度よりは得点の伸びが出てはきているものの、いまだかなりの隔たりが見られる。一方、多くの高専が 5 年卒業時 (大学 2 年次に相当) に取得を目指させている点数が「400 点」、同専攻科修了時 (大学 4 年次に相当) で「430 点」であり、中には同じ専攻科修了時であっても「400 点」を条件している学校すらある (国際ビジネスコミュニケーション協会,2002)<sup>22)</sup>。

また、国立山口大学経済学部の卒業生 (大学 4 年次) に取得を目標とさせている点数が「400 点」

であることから鑑みても、「TOEIC450点」という目安は高校生が取得する目標値としては相当高い位置にあると推測される。

一方、Bridgeの出題方式と、センター試験の出題形式とを比較すると以下ようになる。

表 12：TOEIC Bridge と、センター試験の出題形式との比較 (2004)

| TOEIC Bridge (60分)         | 大学入試センター試験 (80分)          |
|----------------------------|---------------------------|
| 第1-3問：Listening            | 第1問 発音・アクセント              |
| 第4問：文法・語彙                  | 第2問 文法・語法、会話表現、語群整序       |
| 第5問：図表等ビジュアル読解 (日常生活)      | 第3問 長文中語補充、文整序            |
| 第4問：——                     | 第4問 図表等ビジュアル読解 (論説)       |
| 第5問：——                     | 第5問 ビジュアル会話読解             |
| 第6問：——                     | 第6問 長文読解 (小説)             |
| Listening：あり<br>(50点/100点) | Listening：なし<br>(0点/200点) |
| 全問題中の Listening の比率        |                           |
| 50%                        | 0%                        |

表 13：TOEIC Bridge と、センター試験の出題形式との比較 (2010)

| TOEIC Bridge (60分)         | 大学入試センター試験 (80分)                |
|----------------------------|---------------------------------|
| 第1-3問：Listening            | 第1問 発音・アクセント                    |
| 第4問：文法・語彙                  | 第2問 文法・語法、会話表現、語群整序             |
| 第5問：図表等ビジュアル読解 (日常生活)      | 第3問 未知語・表現推測、討論要約<br>長文中語補充、文整序 |
| 第6問：————                   | 第4問 図表等ビジュアル読解 (論説・図表)          |
|                            | 第5問 ビジュアル会話・論説読解                |
|                            | 第6問 長文読解 (評論・論説)                |
| Listening：あり<br>(50点/100点) | Listening：あり<br>(50点/250点)      |
| 全問題中の Listening の比率        |                                 |
| 50%                        | 20%                             |

上記のように、Bridgeの出題形式はセンター試験のそれと比較すると、Bridgeの第1-3問はセ

ンターのListeningに匹敵し、Bridgeの第4問はセンターの第2問、Bridgeの第5問はセンターの第4問に該当する形になっている。だが、実際の問題を見比べてみると、およそ違いがあることから、センター試験対策を敷いている普通の学校レベルでは対応しにくいのが実情であり、あえて言及するならば「英検2級」(高等学校修了程度)を取得している生徒数が多い学校ほど英検を中心に英語学力の向上を図りながら、「2級の次の英語学習指針」として「英検準1級」(大学2年修了程度)または「TOEIC」を併行して薦める傾向があると思われる。

その背景としては「準1級」の出題語彙数が7,500語レベルになっているためにそれほど難しい単語を知らなくとも英語での日常生活レベルでは支障はなく、むしろ周知の単語語彙数のレベルからでもSkimming, Scanningなどの幅広い技能を持って英文に接することができる能力の方を重視するのではないかと思われる。更には「英検1級」(大学修了程度)となると語彙数は10,000語レベル以上にまでなるので、かなり専門的で難解な語彙となることから敬遠されがちになってしまうのではないかと推察される。反面、英検1級を取得している者のTOEICの獲得平均スコアが2002年度では794点となっていた一方(国際ビジネスコミュニケーション協会,2003)24)で、2010年には945点に大幅上昇をしている(国際ビジネスコミュニケーション協会,2011)25)ことから、TOEICで900点以上を取得した人であれば英検1級はほぼ合格しており、逆に言えば、英検で1級を取得している者は、TOEICでは900点を確実に越えるということも言える。

もう一つBridgeの採用に際して考えられる点としては、この試験形態とTOEFLの出題傾向が類似しているといった事も挙げられる。近年全国的に有名な進学校からは日本の大学にはあえて進学せずに米国・英国などの大学に直接進学する傾向も増えてきている。その際TOFELは外国大学を受験する際にはその関門となるが、それを受験するという事は直接日本の大学入学試験の出題形式に捉われる必要はなくなるのであり、それは加えて「国際的コミュニケーション能力の修得や伸長度を測る」試験の受験へとつながっていくことになる。更にそのような観点から見ると、TOFELへの準備がそのままTOEICの準備へとつながっていくのであり、それにはTOEIC自体が企業や

日常生活のレベルでの用いる英語としては少々難しいために、その布石として Bridge を受験しようという動きにもつながってくるのではないかと思われる。しかしながら、この TOEFL も「英検 2 級取得」相当の得点は約 670 点満点中 350-400 点 (Paper Based Test : 略称 PBT) とされていることから、「英検 2 級」を取得した上で更に勉学を重ねて米国大学入学の最低レベルに相当する 500 点台 (= 準 1 級に相当) を目指していかなければならず、場合によっては Bridge よりも遥かにレベルの高い試験であるといえることができる。

以上の点から、大まかに言って「英検 2 級取得者」 (= TOEIC450 点取得者に相当か) は次の学習指針として TOEIC に進むであろうと思われる。逆に言えば、「英検 2 級取得」までは無理して TOEIC に進む必要はないのだが、その善後策として「英検準 2 級」か「Bridge」の選択になろうかと思われる。しかしながら、全体としては大学受験の準備のための資格試験といった観点に焦点を合わせると、出題形式や出題内容の類似点から「英検」にその優位性が上がり、あえてそれでも「コミュニケーション能力の伸長度測定」といった形を取りたい場合 (= 大学受験での模擬試験的要素を度外視した場合) には「Bridge」を採用するのではないと思われる。

Writing については、前述したように TOEIC は「SW テスト」を 2006 年度より導入している。加えて、Writing Competence を測定したい場合には「TWE (Test of Written English)」や「Global Test of English Communication (Benesse : 略称 G-TEC)」が行っている Writing Test の方が前者のテストよりは以前にできていることから実績が認められると思われる。

前述したように上記の 2 テストは実際にテーマに即して論旨展開を含めた英文による記述 (小論文方式) を導入し、それを Native が直接添削をして採点をする手法を取っており (表 14, 15)、加えて G-TEC においてはそれを赤字で添削して受験者に返却するといった方法を採用していることから、Native の視点にかなった「論理的な構成」と「文法的に正しい表現方法」の 2 点が測定される事になる。反面 TOEIC SW テストと同様に TWE が要求する内容は大学生レベルのそれに準じてくる事もあるが、G-TEC の Writing Test に関しては高校生レベルに合わせた内容を提示していることから高校現場における採用率は高い。

また、Reading や Listening 試験においては、TOEIC との獲得得点の相関関係も極めて高いといった実証データも出ている (東京大学, 1999) 26)。これらの現象から Bridge が幅を利かせ始める以前には「G-TEC」の採用が数多くあった。Bridge 自体の相関関係を示した論文や、Bridge と TW テストとの得点に関する相関についての論証はいまだされてはいないが、それでも確実に「TOEIC につなげるための高校生用の試験」という位置付けはなしているように思われる。大学入学試験においても、以前から東京大学で Paragraph Writing に関する問題が出題されていた (表 14)。

表 14 : 「Paragraph Writing 試験」 例題 1

次の命題について、自分の意見を一つ決定付けた上で、論旨展開がなされるように英語 20 語で記しなさい。

前文省略

The Japanese government (should / should not) encourage us to make human clones like Doreen, the sheep clone, because .....

(東京大学, 2000) 27)

北海道大学においては、「日本の夫は、他の先進国同様に家庭内の子育てに積極的に関与すべきである」といった命題を、先進国の子育てに関するグラフを提示しながら、3 つの段落に分けて論旨の展開をしながら英文で記すといった出題がなされた (2002)。

表 15 「Paragraph Writing 試験」 例題 2

Now look at the graph (略) on the next page and write your own paragraph about the amount of housework Japanese men do. Your paragraph should be 100-130 words long. Use the following pattern as a guide:

First sentence - To introduce the topic, write a sentence describing the amount of housework that Japanese men do. In this sentence it is not necessary to give detailed information.

Middle sentences - Support your first sentence by a) using information from the graph to compare Japanese men with men

from the other two countries, and b) giving two reasons why you think these differences might exist.

Last sentence — Summarize the main idea of your paragraph. Include your opinion if you want to.

(北海道大学,2002)28

このように、大学入試問題においても従来の「語群整序」や「和文英訳」といった「英作文」から、真の「書く」力を測る、Paragraph Writingの「英語による作文(小論文)」形式へと移行しているという事から見ても、このWriting Testの出題については、TOEICを運営する国際コミュニケーション協会は先行をしていることから、英検協会の今後のより一層の検討と発展性が待たれる所である。

#### 4. 結論

上記の内容から鑑みて、これまでの調査からは試験に出てくる語彙の数や文法の内容、および学習内容などを総合的に考慮すると、中学・高等学校現場には英検に対する有意性が高いと思われる。一方、国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「SWテスト」や、Writing Competenceを測定するための「TWE」、およびベネッセの行うG-TECが提供するWriting Testは、Nativeによる採点がなされているといったことから、「書く」ことに対する試験による「指導」がなされていることを鑑みると、これについては英検協会は後塵を拝していると思われる。今回の調査を踏まえて、今後もどのような試験が中学・高等学校の教育現場にはふさわしい英語資格試験であるのか、さらに考察を重ねていく。

#### 参考文献

- 1) (財) 日本英語検定協会 (2003) 出題の基本方針と評価 pp.3-5 英検ガイド 2003 東京:(財) 日本英語検定協会
- 2) TOEFL (2003) TOEFL TWE Writing Topics <ftp://ftp.ets.org/pub/toefl/989563wt.pdf>
- 3) Benesse Cooperation (2002) Writing 『第5回英語コミュニケーション能力テスト』 pp.26-27 東京: School Benesse
- 4) 藤原宏之 (1997) センター試験と英検2級の類似性 pp.10 『The Eiken Times』 4月臨時増刊号 東京:(財)日本英語検定協会
- 5) 山西敏博 (2000) 英検取得級と大学入試センター試験英語科目との相関関係に関する研究『STEP Bulletin 2000』 東京: 日本英語検定協会
- 6) 藤井章徳(1997) 本校における「英検」活用について pp.17 『英検&入試情報』 東京:(財)日本英語検定協会
- 7) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2012) TOEIC スピーキングテスト・ライティングテストについて <http://www.toeic.or.jp/sw/about/> 東京:(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 8) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) V-1 所属学校別受験者数 (2010 年度) pp. 7 『TOEIC スピーキングテスト/ライティングテスト2010 DATA&ANALYSIS』 東京:(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 9) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) V-2 企業が求める英語力 (2010 年度) pp. 8 『TOEIC スピーキングテスト/ライティングテスト2010 DATA&ANALYSIS』 東京:(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 10) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2003) V-4 実用英語技能検定 (英検) 取得級別受験者数と平均スコア pp.7 『TOEIC テスト 2002 DATA&ANALYSIS』 東京:(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 11) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) IV-7 過去5年間の新入社員受験者数推移と平均スコア (1998 年度~2002 年度) pp.6 『TOEIC テスト 2010 DATA&ANALYSIS』 東京:(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 12) 金谷憲 (2002) TOEIC Bridge の効果的な活用方法と今後期待するもの 『TOEIC Bridge Newsletter』 1,pp.10 東京:(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 13) 聖光学院中学校・高等学校 (2004) 大学合格者数 学校案内ホームページ

- 14) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2003) 聖光学院中・高等学校 中学2年と3年生全員に実施。学年ごとの能力比較に活用『活用事例 中学・高校 TOEIC Bridge』東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 15) 栄光学園(2004) 卒業後の進路 2003 年度大学合格者数 (2003.5.9 判明分) 学校案内ホームページ <http://www.eiko.ed.jp/index-j.html>
- 16) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2003) 栄光学園中学高等学校 TOEIC Bridge と TOEIC を併用。学習の成果をテストで把握『活用事例 中学・高校 TOEIC Bridge』東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 17) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2003) 目白学園中学校・高等学校 SELHi として英語教育の成果を把握する為に実施『活用事例 中学・高校 TOEIC Bridge』東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 18) 福岡女学院(2004) 文科省が推進する「英語が使える日本人」の育成のための行動計画・スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール (SELHi) 事業とは 『SEL Hi について』福岡女学院学校案内ホームページ [http://www.fukujo.ac.jp/js\\_new/01SELHi/selhi\\_main.html](http://www.fukujo.ac.jp/js_new/01SELHi/selhi_main.html)
- 19) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2003) 福岡女学院中学校・高等学校 SELHi として英語教育の成果を把握する為に実施『活用事例 中学・高校 TOEIC Bridge』東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 20) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2003) 栄東高等学校 1 年生全員にテスト実施。今後の英語教育の指針に活用『活用事例 中学・高校 TOEIC Bridge』東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 21) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (2003) 受験者データレポート Data File, 『TOEIC Bridge Newsletter』3, pp.5 April 2003 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 22) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) V-1 所属学校別受験者数と平均スコア 『TOEIC テスト 2010 DATA&ANALYSIS』 <http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/DAA2010.pdf> 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 23) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2002) 技術者教育の場・高専における TOEIC の活用 大学から高校へと広がる TOEIC と TOEIC Bridge の活用 『TOEIC SEMINAR 第 91 回 TOEIC&TOEIC Bridge 研究会』 pp.11 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 24) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2003) V-1 所属学校別受験者数と平均スコア pp.7 『TOEIC テスト 2002 DATA&ANALYSIS』 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 25) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) I TOEIC テスト受験者数推移 『TOEIC テスト 2010 DATA&ANALYSIS』 <http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/DAA2010.pdf> 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 26) 東京大学 (1999) 英語コミュニケーション能力 テストと TOEIC との相関関係 東京：School Benesse
- 27) 東京大学 (2000) 入学試験問題 東京：東京大学
- 28) 北海道大学 (2002) 入学試験問題 北海道：北海道大学

【受理年月日 2013年 7月25日】